

令和 7 年度 適性検査 I 問題

(45分)

(注 意)

- 1 「はじめ」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 問題は全部で3題あり、7ページまでです。
- 3 「はじめ」の合図があったら、まず、解答用紙の表裏^{おもてうら}3か所にそれぞれ受験番号を書きなさい。
- 4 答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めないときや、体の具合^{ぐあい}が悪くなったときなどは、だまって手をあげなさい。
- 6 検査中は、話しかけたり、わき見をしたり、音を立てたり、声を出して読んだりしてはいけません。
- 7 「やめ」の合図で、すぐに筆記用具を置き、問題用紙を閉じて机^{つくえ}の上に置きなさい。
- 8 検査終了^{しゅうりょう}後、問題用紙、解答用紙はすべて回収するので、持ち帰ってはいけません。

- 1 わたるさんとまりこさんは、5月に行われた6年生と1年生の第一合同お楽しみ会の反省会をしています。次の【会話文】と【資料1】～【資料3】を読んで、あとの(1)～(3)の問いに答えましょう。

会話文

わたるさん：5月に行われた6年生と1年生の第一合同お楽しみ会は、とても盛り上がったね。来月に行われる第二回をもっと良い会にするために、反省会をしよう。

まりこさん：そうだね。まず、招待状（【資料1】）に反省点はあるかな。

わたるさん：忘れ物が多かったのは、持ち物が書いてあるところが目立たなかったからかもしれないね。次回は、ようにしよう。それから、集合した時間がばらばらで、1年生を長い時間待たせてしまったのも良くなかったな。次回は、ようにしよう。

まりこさん：なるほど。そこをくふうすれば、次回はもっと分かりやすい招待状にできそうだね。レクリエーションはどうだったかな。

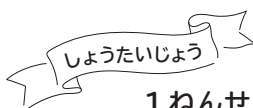
わたるさん：前は先生からの注意事項（【資料2】）をもとに、6年生の人气が高かったドッジボールはやめたんだったね。からね。

まりこさん：それで、ドッジボールの次に人气があった宝さがしゲームにしたんだよね。6年生も1年生も楽しめたと思うよ。

わたるさん：でも、1年生にルールを理解してもらうのが大変だったな。

まりこさん：ルール説明の用紙（【資料3】）を配ったけれど、伝わりづらかったのかもしれないね。より伝わりやすくするためには、どことなくふうができるか、考えてみよう。

【資料1】



1ねんせい・6ねんせい おたのしみかい

1ねんせいと6ねんせいで、
おたのしみかいをひらきます。ぜひきてください！

ひにち：5がつ13にち（げつようび）
じかん：ほうかご
しゅうごうばしょ：たいいくかん

1ねんせいのみなさんがたのしめる、たのしいかつどうを
よいていしています。あかしろうぼうしと、のりと、すきない
ろのペンをもってきてください。1ねんせいと6ねんせいで、
たくさんこうりゅうをしましょう！おまちしています！

【資料2】

【お楽しみ会を行うときの注意事項】

- ・教室、体育館、運動場のいずれかの場所でできる活動にすること。
- ・1年生と6年生が安全に取り組める活動にすること。
- ・食べ物を使った活動はしないこと。
- ・道具が5つ以上必要な活動はしないこと。

【資料3】

たからさがしゲームのルール

1ねんせいと6ねんせいがまざった、4にんチームでおこないます。チームはさきに6ねんせいがきめています。ゲームが始まるまえに、1チームにつき5つのたからものをわたします。

まず、たからものをかくすチームが、たからものをかくします。せいげんじかんは3ぷんです。あぶないところには、かくさないでください。つぎに、たからものをさがすチームは、たからものをさがします。こちら、せいげんじかんは3ぷんです。おわったら、かくすチームとさがすチームをいれかえて、おなじようにたからさがしをします。いちばんおおくのたからものをみつけたチームがゆうしょうです。

- (1) **【会話文】**で、わたるさんは、のように、「忘れ物が多かったのは、持ち物が書いてあるところが目立たなかったからかもしれないね。次回は、**ア**ようにしよう。それから、集合した時間がばらばらで、1年生を長い時間待たせてしまったのも良くなかったな。次回は、**イ**ようにしよう。」と言っています。あなたなら、どのように考えますか。次の《条件1》に合うように書きましょう。

《条件1》

- ・ 解答用紙の **ア** と **イ** には、**【資料1】**の招待状をより良くするためにできるくふうを、それぞれ書くこと。
- ・ 解答用紙の **ア** と **イ** は、「ようにしよう」につながるように、それぞれ書くこと。

- (2) **【会話文】**で、わたるさんは、のように、「前は先生からの注意事項（**【資料2】**）をもとに、6年生の人气が高かったドッジボールはやめたんだったね。**ウ**からね。」と言っています。あなたなら、どのように考えますか。次の《条件2》に合うように書きましょう。

《条件2》

- ・ 解答用紙の **ウ** には、**【資料2】**をもとに、ドッジボールをレクリエーションに選ばなかった理由を書くこと。
- ・ 解答用紙の **ウ** は、「から」につながるように書くこと。
- ・ 解答用紙の **ウ** は、30～40字で書くこと。

- (3) **【会話文】**で、まりこさんは、「ルール説明の用紙（**【資料3】**）を配ったけれど、伝わりづらかったのかもしれないね。より伝わりやすくするためには、どことなくふうができるか、考えてみよう。」と言っています。そこで2人は、ルール説明の用紙にできるくふうについて、案を出し合いました。出た案は右のとおりで、一番上の案が採用となりました。

- ◎ ゲームのルールを、順序立ててか条書きにする
- × 漢字を多く用いた文章にして、読みやすくする
- × イラストのみでのルール説明にする
- × 文章の周りを星やハートで装飾^{そうしよく}して、はなやかにする

「漢字を多く用いた文章にして、読みやすくする」を採用すべきでないのは、なぜだと思いますか。次の《条件3》に合うように書きましょう。

《条件3》

- ・ 解答する際は、「伝える相手」という言葉を必ず使って書くこと。
- ・ 解答用紙の「から」につながるように書くこと。

2

まなぶさんたちは、総合的な学習の時間で、「佐賀県がほこれるもの」として『佐賀県における米づくりの歴史』についてグループで調べ、発表することになりました。次の

会話文と【資料1】～【資料3】を読んで、あとの(1)～(3)の問いに答えましょう。

会話文

まなぶさん：図書館に来てみたけれど、まずはどんな資料が必要か整理してみようか。

ひとみさん：そうね。当たり前だけれど、米がいつごろから、佐賀県のどのあたりでつくられていたのかくわしく知りたいな。だから、佐賀県の歴史の本は必要だね。

そうたさん：そうだね。それに佐賀県で米づくりがさかんになったということは、佐賀県の気候や土地が、米づくりに合っていたんじゃないかな。そういう自然について書かれている本も探してみよう。

まなぶさん：そういえば、米って、東北地方とか新潟県とか、気温があまり高くなくて、たくさんつくられているイメージがあるよね。佐賀県は米づくりがさかんだけれど、日本の都道府県の中では南側にあるから、これがどういうことか知りたいな。

そうたさん：なるほど。それを知るためには、稲^{いね}という植物そのものの特ちょうを調べないといけないね。たしか先生が、「稲は、ア^アのように品種改良されている」って言っていたけれど、そういうことについて書かれている本はあるだろうか。

ひとみさん：図書館で調べるだけでなく取材してみるのはどうかな。*農協とか……。

そうたさん：なるほど。農協にお願いして、取材させてもらおうか。

まなぶさん：そうだね。じゃあ分担して、資料を見つけてこよう。その資料で調べながら、他に疑問や必要な情報が出てきたら、もう一度整理しよう。

……………（後日、発表について話し合う場面）……………

ひとみさん：当日の発表だけど、まなぶさんと私で説明をするから、そうたさんは資料を映す操作をしてくれないかな。

そうたさん：自分に操作ができるか、ちょっと不安だなあ。

まなぶさん：そうだなあ。じゃあ、発表の時に「次の資料をお願いします」という言葉を入れるようにするよ。そうすれば、イ^イことができるんじゃないかな。

そうたさん：それなら安心だ。ありがとう。

*農協：農業協同組合を略した言葉で、愛称のJA（ジェイエー）で呼ばれることもある、日本の農業者がおたがいに助け合うために集まった組織のこと

【資料1】「佐賀県の歴史」の本から、米に関係する内容をまとめたもの

- ① 日本最古の水田跡といわれる菜畑遺跡（縄文時代末期～弥生時代）
- ② 食料を保管する高床倉庫の跡や、米の貯蔵に使われたと思われる土器が多数発見されている吉野ヶ里遺跡（弥生時代）
- ③ 夏～秋に米、それ以外の季節に小麦や大麦をつくる二毛作も非常にさかん（1965年ごろ～）

【資料2】調べるなかで生まれた新たな疑問

歴史の本によると、佐賀県では、太平洋戦争が終わった1945年以降だけでも5回も*高潮が発生しており、すべて夏～秋の初めにかけてであるため、稲への被害も大きいということである。なぜ佐賀県では高潮が多く発生し、被害が大きくなるのか。

*高潮：海面が異常に高くなる現象のこと

【資料3】発表の流れ

構成	示す資料
始め	米づくりをしている様子の写真
中	(1) 【資料1】
	(2) 稲の特ちょうをまとめたもの
	(3) 佐賀県における災害と、農家による対策をまとめたもの
終わり	これまでのまとめ

「中」の(3)で示す図

(国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所のホームページを参考に作成)

- (1) **会話文** で、そうたさんは、 のように、「なるほど。それを知るためには、稲という植物そのものの特ちょうを調べないといけないね。たしか先生が、「稲は、**ア** ように品種改良されている」って言うていたけれど、そういうことについて書かれている本はあるだろうか。」と言っています。あなたなら、どのように説明しますか。次の《条件1》に合うように書きましょう。

《条件1》

- ・10字以内で書くこと。
- ・**会話文** の「気温があまり高くないところでたくさんつくられている」という内容に関連付けて書くこと。
- ・解答用紙の **ア** は、「ように」につながるように書くこと。

- (2) ひとみさんは【資料2】のように、「なぜ佐賀県では高潮が多く発生し、被害が大きくなるのか」ということが気になりました。そこで、佐賀市役所の職員に取材をし、下の【分かったこと】をグループのメンバーに伝えることにしました。あなたなら、どのようなことを伝えますか。次の《条件2》に合うように書きましょう。

《条件2》

- ・【資料3】の『「中」の(3)で示す図』から分かることをもとに書くこと。
- ・高潮を発生させる原因となる、「夏～秋の初めにかけて」起こる自然災害と関連付けて書くこと。
- ・解答用紙の は、「から」につながるように書くこと。

【分かったこと】

佐賀県の約3分の1を占めている佐賀平野は、 から、高潮が多く、被害が大きくなりやすい。

- (3) **会話文** で、まなぶさんは、 のように、「そうだなあ。じゃあ、発表の時に「次の資料をお願いします」という言葉を入れるようにするよ。そうすれば、 ことができるんじゃないかな。」と言っています。あなたなら、どのようなことを述べますか。次の《条件3》に合うように書きましょう。

《条件3》

- ・「次の資料をお願いします」という言葉を用いることの効果を書くこと。
- ・解答用紙の は、「こと」につながるように書くこと。

- 3** りさんは、今日あった出来事についてお母さんと話をしています。次の **会話文** と【資料1】、【資料2】を読んで、あとの(1)～(3)の問いに答えましょう。

会話文

お母さん：帰ってきてからずっと元気がないけれど、どうしたの。

りさん：実は今日、バスケットボールクラブの練習試合で、大きなミスをしてしまったんだ。同じチームのみんなはとても上手だから、かっこ悪いと思われただろうと思って、落ちこんでいるの。

お母さん：そうだったのね。でも、鎌倉時代の有名な文章に、「下手なうちは人前に出ず、上手になってから人前に出ようと言う人は何の芸も身に付かない」って書いてあるのよ。ほら、この文章（【資料1】）を見て。失敗をおそれず、また練習をがんばればいいじゃない。

りさん：たしかに、そうかもしれない。書いてある通り、スポーツでも他の分野でも、 ような人が上達する気がするよ。昔の人の言葉って、今を生き

る私たちにも通じるものがあるんだね。ちょっと元気になってきた。ありがとう。

お母さん：どういたしまして。でも、言葉といえば、お母さんもこの間、お父さんと話していて、ずっと間違^{まちが}った使い方をしている言葉があったことを知ったの。とてもはずかしかったわ。「情けは人のためならず」という言葉なんだけれど。

りささん：「人に情けをかけておくと、めぐりめぐって結局は自分のためになる」という意味の言葉だね。ちょうど国語の授業で学んだばかりだ。間違えて使う人が多い言葉らしいよ。

お母さん：やっぱり、そうなのね。

りささん：それに関係することなんだけど、この「見聞きした言葉が間違^{かん}いや勘違^{ちが}いだと思ったときの好ましいふるまい」を調査したデータ（【資料2】）を見て。これを見ると、好ましいふるまいとして一番割合が高いのは だと読み取れるね。

お母さん：おもしろいデータね。そのときも、お父さんがいっしょに言葉の意味を調べてくれて、うれしかったのよ。笑わないでいてくれたことにも救われたわ。

りささん：その授業では、このデータを参考に、見聞きした言葉が間違^{かん}いや勘違^{ちが}いだと思ったとき、どんなふるまいをするのが良いか、ということも、みんなで考えたんだ。私の試合のミスするときも、チームのみんなが私のミスを許してくれたり、優しい言葉をかけてくれたりしたことがありがたかったことを思い出したよ。周りの人の失敗や間違いに気づいたときに、どんなふるまいをするのが良いか、私も考えてみよう。

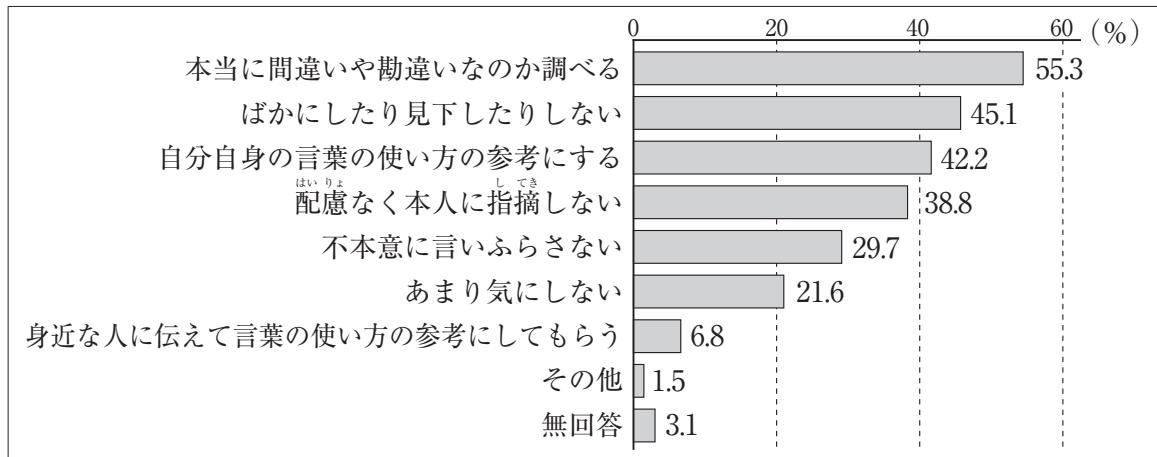
【資料1】鎌倉時代の文章

芸を身に付けようとする人は、「上手でないうちは、なるべく人に見られないようにしよう。こっそりと練習をして、上手になってから人前に出たら、とてもすばらしいだろう」といつも言うようだが、このように言う人は、どんな芸も身に付くことはない。

まだ下手なときから、上手な人に混ざって、けなされ笑われるのをはずかしいことだと気にしたりすることなくはげみ、自分から進んで努力ができる人。そういう人は、たとえ才能がない人だったとしても、才能があつて練習をしない人よりも上手になり、長所も伸びて、周りの人に認められて、ゆくゆくはだれよりも名人だと言われるようになるのだ。

つれづれぐさ
（『徒然草』 第五十段 より）

【資料2】 見聞きした言葉が間違いや勘違いだと思ったときの好ましいふるまい



(文化庁「令和4年度 国語に関する世論調査」より)

- (1) **会話文** で、りさんは、 のように、「たしかに、そうかもしれない。書いてある通り、スポーツでも他の分野でも、**ア** ような人が上達する気がするよ。昔の人の言葉って、今を生きる私たちにも通じるものがあるんだね。ちょっと元気になってきた。ありがとう。」と言っています。あなたなら、「上達する」人の特ちょうをどのように説明しますか。次の《条件1》に合うように書きましょう。

《条件1》

- ・解答用紙の **ア** には、【資料1】の言葉を使って、「ような人」につながるように書くこと。
- ・解答用紙の **ア** は、30～40字で書くこと。

- (2) **会話文** で、りさんは、 のように、「それに関係することなんだけど、この「見聞きした言葉が間違いや勘違いだと思ったときの好ましいふるまい」を調査したデータ（【資料2】）を見て。これを見ると、好ましいふるまいとして一番割合が高いのは **イ** だと読み取れるね。」と言っています。見聞きした言葉が間違いや勘違いだと思ったときの好ましいふるまいとして一番割合が高いふるまいを、【資料2】のふるまいの中から1つぬき出しましょう。

- (3) **会話文** で、りさんは、「周りの人の失敗や間違いに気づいたときに、どんなふるまいをするのが良いか、私も考えてみよう。」と言っています。あなたなら、どのように考えますか。次の《条件2》に合うように書きましょう。

《条件2》

- ・周りの人の失敗や間違いに気づいたときの具体的なふるまいと、そのふるまいが良いと考える理由を書くこと。
- ・ふるまいと理由は、それぞれ1文で書き、文と文をつなぐ言葉を適切に使って2文で書くこと。